

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092600036		
法人名	有限会社 幸楽		
事業所名	グループホーム幸楽		
所在地	長野県木曾郡木曾町日義4905		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCsCd=2092600036-](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCsCd=2092600036)

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和5年2月19日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

御岳山と駒ヶ岳を一望することができ、季節の移り変わりを肌で感じていただくことができる環境にあります。ここでは、ご自分でできることは行っていただき、お一人おひとりが役割をもっていただき、ご自分の持っている力を活かし、張り合いのある生活を送っていただくよう取り組んでいます。両ユニット間の交流を行い、利用者様同士と思い思いに会話をされたり、皆で歌や坊主めくり、トランプなどを行っています。個人活動としては、利用者様の思いを尊重して希望をお聞きし、塗り絵、パズル、折り紙等を行っています。また、医療機関や訪問看護ステーションと連携し、健康管理に留意しています。コロナ禍で直接の面会を制限しておりますが、ガラス越しの面会やオンライン面会等を行い、充実した時間を過ごされております。職員一同、笑顔を大切に、利用者様に穏やかな気持ちで過ごしていただけるように努めています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

グループホーム「幸楽」は、西に雄大な御岳山、東に真近に木曾駒ヶ岳を望むことができる木曾駒ヶ高原の一角にあり、コロナ禍の中、人との交流は制限されても、自然との交流が無限に広がる環境にある。コロナの感染者が出たが、保健所などの指導の下、大過なく乗り越えてきた。新しく管理者を迎え、職員とともにこれまでの実践を踏まえ、理念を継承してきたことは素晴らしいと思われる。特に、「地域とのきずな」を大切に、自治会活動に積極的に参加したり、地域の協力を得て運営推進会議を地区の集会所で開いたり、避難訓練で第2避難場所の向いのマンションに避難誘導したりして地域の一員として溶け込んでいる。さらに「利用者の自立」を目指して、日々実践を継続していくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(1F)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

ユニット名(2F)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない						

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員と理念を共有し、業務に関わることができるよう職員会等で周知しています。特に、利用者様がリハビリを通して自立できるように、歩行器の使用から手すりの利用へとするケアを実践しています。	「利用者の自立、職員の相手の立場に立った支援、自己研鑽、地域とのきずな」という4つの理念を掲げ、職員会で理念を基に話し合い、実践につなげている。また、毎月の「幸楽便り」に理念を掲げ、利用者や家族に理解してもらうように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、これまで続けてきた地域のつきあいが少なくなってきました。ボランティアの受け入れや地域行事への参加ができませんでした。	コロナ禍のため、これまでの地域とのつきあいが中止になったり、制限されてきたりする中でも、自治会のごみ収集や作業に参加したり、近くのマンションとの災害対策の協定を結んだりして、地域の一員としての交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行われている中学生の福祉体験では、認知症の人への理解を深めていただくために、利用者様との触れ合いを深めてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染者が地域でも増え、感染対策のため中止となってしまいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、地域の集会所をお借りして開催するなど工夫しています。2か月に1回開催し、参加していただいた皆様よりいただいた助言を参考にさせていただいています。	第2回の運営推進会議は地域の集会所を利用して開くことができたが、コロナ禍のため、後の4回の運営推進会議は、書面での報告等になった。第6回の運営推進会議を3月下旬に予定している。	書面での報告のときにも、通信欄を設けたり、電話で連絡したりして、多くの運営委員の意見を聞いて、助言を受け活かしていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、介護保険認定更新の認定調査等で連携し、かかりつけ医の意見書の提出等で協力関係を築いています。	コロナ感染の対策として県や町から検査キットやマスク、パルスオキシメーター等の補助があった。また、5回のワクチン接種を行ってきた。利用者1名の感染者が出てきたので、保健所からの助言を受けて居室対応を行い、濃厚接触者の検査も行って感染を防いできた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で話し合い、職員全員が理解できるように周知徹底を行い、身体拘束について深く学んでいます。	6月の内部の研修会で、身体拘束について話し合ってきた。1Fには、弄便の利用者がいるので、排便コントロールなどいろいろな対策をとってきたが、家族との了解を得て現在はつなぎのパジャマを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や研修会で虐待について理解し、職員同士でも常に指摘し合うように努めています。過剰なボディータッチや強引な行動に注意を払い、職員全員で気をつけています。		

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護の研修会に参加し、制度について学んでいます。しかし実践に結びつくケースが少ないため、必要に応じて活用していくようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様の疑問点を把握し、不安がないようにわかりやすく説明して、理解を得るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会の時や電話での対応の時に、ご家族様の意見を聞き入れ、管理者に報告しています。管理者は職員間で共有できるように努め、運営の向上に向け、反映するようにしています。	利用者や家族への簡単なアンケートを作っており、実施しているが、さらに内容を工夫していく予定である。それらの意見や要望を反映できるように、職員会で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はユニットリーダーへ、ユニットリーダーから管理者へ、管理者から社長へと順次検討し、反映できるようになっています。	職員の全体会や、ユニットごとの会を通して、職員の意見を反映できるようにしている。「改善シート」を利用して、課題の改善を活動に結びつけ、取り組むようにしている。「ケア日誌」の記述から、利用者の座席を工夫して変えたりするなどケアの実践に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長と常に連携を取り、職員の就業状況や前向きな姿勢を把握しています。職員各自が仕事にやりがいのある職場の環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の育成では、研修計画を立て、職員同士で協力し合い、しっかり指導し、理解できるまで補助をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で同業者との直接の交流が難しくなっています。電話やメールで情報交換し、サービスの質の向上に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様個人の思いや意見を尊重し、安心して生活できるような支援に努めています。傾聴、受容、共有を大切に、しっかり関係づくりを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安なことや要望等に耳を傾け、対応しています。安心してグループホームとの関係が維持できるように努めています。ご家族様の悩みや相談を受け、共有して取り組むようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話に耳を傾け、要望等を把握し、それに対して的確な支援が行えるように努めています。体調の悪い方や他の施設に入所希望の方の受け入れにも配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様の立場に立ち、その思いを尊重し、思いやりの心で支援するよう努めています。利用者様が今までやったきたこと、できることを把握し、やっていただき、自信につなげるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時や電話での対応、月に一度の生活状況の連絡や「幸楽便り」で利用者様の様子をお知らせしています。面会はコロナ感染状況を考慮し、柔軟に対応するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人・知人等の要望により、これまで自由に面会をしていただいていたのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐため、ガラス越しの面会となっています。ガラス越しでも会話ができるようにマイクを準備し、話しやすい環境づくりに心がけています。	家族や親戚、友人や知人とは、コロナ感染の状況に応じ、外と入口、入口と玄関、玄関内というように制限した面会やオンライン面会などを通して関係継続の支援をしている。友人や知人とは葉書などのやり取りなどができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様を常に見守り、間に入って支援しています。職員も利用者様の好みを理解し、利用者様同士で楽しむことができる話題づくりに努めています。		

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設への入所のため、退所されるケースがあります。病院や施設には書面や電話でこれまでのサービス利用状況や状態を知らせしています。今後、ご自宅等に戻られた場合は、ご本人やご家族様からの相談に応じていきたいと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思い、今まで大切にしてきたことや続けてきたこと、これからどのように暮らしていきたいか等をお聞きしています。困難な場合は、ご家族様から今までの暮らしをお聞きするなどして検討しています。	最初は、利用者一人ひとりの「アセスメント表」を活用している。利用者の思いや意向について職員は、傾聴、受容、共有の態度で接し、ふだんから「ケア日誌」に記録し、話し合ってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される時は、ご本人、ご家族様、ケアマネジャーより生活歴やなじみの暮らし方等を確認し、把握しています。サービスの利用先より利用状況をお聞きし、その把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「ケア日誌」により、全職員が利用者様一人ひとりの暮らしを把握しています。医療機関を受診したときは、「医療機関受診表」、「お薬情報」で確認し、把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回開催する職員会議で利用者様一人ひとりのモニタリングを行い、短期目標の達成度を評価し、新たな課題があるか等を検討しています。見直しが必要な時は、ご家族様や訪問看護と連絡をとり、介護計画の見直しを行っています。	ユニットごとの職員会議で、職員全員でモニタリングをしている。そして、利用者の実態を踏まえて、長期目標、短期目標を設定して、具体的なサービス内容を見直し、介護計画を新たに作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケア日誌」を元に職員会議で意見交換し、日々の生活の様子を把握して、モニタリングをして実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族様のニーズを確認し、できる限りの対応を行っています。医療機関への付添いなどを行っています。		

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方から季節の野菜を届けていただき、季節の野菜を使った食事の提供をすることができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様は、定期的に医療機関を受診をされています。受診が困難な利用者様については、定期的に往診をしていただいています。ご家族様と医療機関等と連携し対応しています。いつもと違う様子にいち早く気づき、訪問看護と連携し医療機関につなげるように対応しています。	かかりつけ医とは2、3カ月に1回、定期的を受診ができるように支援している。1Fでは1人、往診を受ける利用者がある。毎週1回の訪問看護による看護サービスを受けるようになっており、緊急の場合はかかりつけ医と連携して診てくれるので安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護ステーションから看護師に来ていただいています。それ以外でも日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきは常に看護師に相談し、適切な指示の下、対応するようにしています。いつもと違う様子にいち早く気づき、訪問看護と連携し医療機関につなげるように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院の患者サポートセンターへ情報提供を行っています。退院時は、病院の患者サポートセンターとご家族様と連携を密にし、情報交換をし、退院する前にカンファレンスを開催していただき、訪問看護ステーションと連携を密にし対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常にご家族様と医療関係者と連携を密にして情報交換をしながら、安心して療養できる支援を行っています。	1Fには、全介助を必要とする重度化した利用者が1人いるが、介助を受けながらホールまで出向くことができる。マニュアルを備え、ターミナルケアまで行うような体制をとっている。これまでかかりつけ医と相談して看取りを医療機関で行った事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、訓練したり、研修したりして取り組む体制ができています。救命のための訓練を実施し、実践力を身につくよう努力しています。利用者の中にコロナ感染者が出ましたが、保健所の助言を受け、的確な対応をしてきました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町や消防署の協力体制の下、定期的な訓練を行い、全職員が学んでいます。水や食料品などを備蓄し、持ち出し品の整備を行っています。利用者様の安全確保や避難については、訓練やシュミレーションを行い、有事に備えています。	6月に消火訓練と避難訓練をし、11月には避難訓練として、1Fは第1避難場所の玄関外から第2避難場所の向いのマンション(災害対策の協定を結んでいる)まで、自分で歩ける利用者や車椅子の利用者を避難誘導してきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や研修会を通して職員全員が学び、利用者様と接するようにしています。利用者様の尊厳を守り、心身ともに苦痛を与えないように心がけ、対応しています。	「高齢者の尊厳保持について」などの研修会を通して、職員は学び、日々の利用者との接し方に留意している。居室の戸を閉め、おむつ交換をするなど、利用者のプライバシーを守った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いを伝えることができる利用者様にはお話を傾聴し、わかりやすい声かけをして、自己決定ができるように支援しています。それが困難な利用者様には、声かけて勧めても望んでいないような様子が見られた時には、別の方法に変えるなどしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様が優先という気持ちで全職員が持ち、支援に努めています。職員つごうの支援はしないように留意し、気をつけるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝る前にはパジャマに、朝は私服に着替え、一日の活動のメリハリができるようにしています。髪の毛を整えたり、リップクリームを塗ったりするように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のこれまでの食生活を把握し、良い雰囲気の中で温かい食事がとれるように支援しています。利用者様と職員と一緒に、野菜の皮むきや味見、食べる前のテーブル拭きや食器洗い、食器拭き、そしてお膳拭きを行っています。	ユニットごとに担当職員が毎日の食材を考え、メニューを作っている。季節や行事に合わせた特別な日には、利用者の希望などを活かして、ほう葉寿司やおはぎ、年越しそばなどを利用者も一緒に作り、会食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じた食事形態で食事を提供しています。一口大に切ったり、刻んだり、ミキサー食にしたり、トロミをつけたりするなど、咀嚼や嚥下状態に合わせた提供をしています。栄養を考え、肉と魚などを交互に摂取できるように支援しています。水分摂取や食事の摂取量を記録し必要量が摂れているかチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりの状態に合わせて、歯磨きをしたり、口腔内ウエットティッシュを使用したりして、口腔内の清潔保持に努めています。		

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを把握し、声かけを行い、自立に向けた支援を行っています。排泄の失敗をした時でも、丁寧な言葉かけや対応ができるように心がけて支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、時間を見ながら声かけし、支援している。1Fには、おむつ使用の利用者がいるので、おむつ交換では細心の配慮を行っている。また、1Fには男子用のトイレを設置して、気軽に排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課の中で、ラジオ体操や適度な運動をしたり、必要とされる水分を飲むようにしたり、食物繊維を多く取り入れた食事を摂ったりするなどの支援をしています。排便コントロールについては、医師と訪問看護師に相談して、便秘薬を使って排便してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に合わせ、決して強要することなく、その日の体調に合わせて入浴を支援しています。入浴前に必ずバイタルチェックを行い、入浴後に水分補給をするようにしています。	大きめの広いユニットバスで、原則として週2回午後から3人ずつ入浴できるようになっている。利用者は希望を聞いてもらい、好きな時に入浴できる。1Fは車椅子利用者が2名いるので、シャワー浴で職員の介護を受けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の一人ひとりの睡眠時間を尊重し、体調に差し支えないようにしています。昼寝をされる利用者様もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの「お薬説明書」を作り、全職員が見えるようにして学んでいます。誤薬、与薬もれがないように注意し、職員全員でご本人の名前と、食前、食後、日付を声に出して確認してから提供しています。状態に応じてご本人の手の上に置いたり、口の中に入れてあげたりして提供しています。利用者様が飲み込むまで見届けるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりが役割を持って全体の中で活動できるレクリエーションや個人の好みに合わせたレクリエーションなどを工夫して行い、気分転換ができるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出することが困難となっていますが、時々玄関先のベンチに座ってもらい外気浴をし、気分転換を図るようにしています。グループホームの前を行き交う地域の方と挨拶を交わしています。	コロナ禍のため外出も制限されている中、環境に恵まれたこのグループホームでは近所周りを散策して楽しんでいる。また、ドライブで桜や紅葉を見たり、かかりつけ医に受診する時は道のりの景色を楽しんだりして、気分転換をしている。	

グループホーム 幸楽1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のほぼ全員がお金の管理が難しい状況です。ご本人の希望があれば、ご家族様に相談して承諾を得てから、立て替えて購入している利用者様もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と連携し、次ごうの良い時間を相談してから電話をかけるようにしています。携帯電話を持って入所される方もいます。ご自身で操作が困難な場合は支援をさせていただきます。手紙については、必要な物を提供し、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に共用の空間を清潔に保ち、居心地の良い空間になっています。電灯の交換や清掃をこまめに行い、清潔な空間となるように気配りをしています。	1Fの玄関周りの壁を模様替えしてきて、好評であった。利用者職員とが共同で作った作品が飾られ、明るい雰囲気を感じられる。広いリビングには大型テレビが備えられ、利用者が楽しんで見たり、CDを使って歌ったりする娯楽の場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様はそれぞれ好まれる居場所があり、好きな場所で過ごしてもらえるようになっています。職員は、思い思いの場所で過ごしていただけるようにそっと見守っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族と相談し、できる限り使い慣れた物を持ってきてもらい、環境を整えて、安心して過ごしていただけるようにしています。	居室は旧旅館の名残が残っていて、それぞれ少しずつ違いがあるが、心地よい空間となっている。各居室にはベッドやチェスト、椅子や床頭台などが提供されていて、使いやすくなっている。それぞれの居室には利用者の塗り絵の作品が飾られ、親しみを感じられようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の一人ひとりの日常生活を把握し、職員間で周知し、安全で自立した生活が送れるように工夫しています。利用者様の動線での安全面を考慮し、自由に歩行できるように工夫しています。		

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員と理念を共有し、業務に関わることができるように職員会等で周知しています。特に、利用者様がリハビリを通して自立できるように、歩行器の使用から手すりを利用へとするケアを実践しています。	「利用者の自立、職員の相手の立場に立った支援、自己研鑽、地域とのきずな」という4つの理念を掲げ、職員会で理念を基に話し合い、実践につなげている。また、毎月の「幸楽便り」に理念を掲げ、利用者や家族に理解してもらうように努めている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、これまで続けてきた地域のつきあいが少なくなってきました。ボランティアの受け入れや地域行事への参加ができませんでした。	コロナ禍のため、これまでの地域とのつきあいが中止になったり、制限されてきたりする中でも、自治会のごみ収集や作業に参加したり、近くのマンションとの災害対策の協定を結んだりして、地域の一員としての交流を続けている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行われている中学生の福祉体験では、認知症の人への理解を深めていただくために、利用者様との触れ合い深めてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染者が地域でも増え、感染対策のため中止となりました。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、地域の集会所をお借りして開催するなど工夫しています。2か月に1回開催し、参加していただいた皆様よりいただいた助言を参考にさせていただいています。	第2回の運営推進会議は地域の集会所を利用して開くことができたが、コロナ禍のため、後の4回の運営推進会議は、書面での報告等になった。第6回の運営推進会議を3月下旬に予定している。	書面での報告のときにも、通信欄を設けたり、電話で連絡したりして、多くの運営委員の意見を聞いて、助言を受け活かしていきたい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に、介護保険認定更新の認定調査等で連携し、かかりつけ医の意見書の提出等で協力関係を築いています。	コロナ感染の対策として県や町から検査キットやマスク、パルスオキシメーター等の補助があった。また、5回のワクチン接種を行ってきた。利用者1名の感染者が出てきたので、保健所からの助言を受けて居室対応を行い、濃厚接触者の検査も行って感染を防いできた。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに	職員会議等で話し合い、職員全員が理解できるように周知徹底を行い、身体拘束について深く学んでいます。	6月の内部の研修会で、身体拘束について話し合ってきた。幸楽2Fには身体拘束の実例はない。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や研修会で虐待について理解し、職員同士でも常に指摘し合うよう努めています。過剰なボディータッチや強引な行動に注意を払い、職員全員で気をつけています。		

グループホーム 幸楽2F

己自部外	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護の研修会に参加し、制度について学んでいます。しかし実践に結びつくケースが少ないため、必要に応じて活用していくようにしています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様の疑問点を把握し、不安がないようにわかりやすく説明して、理解を得るように努めています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会の時や電話での対応の時に、ご家族様の意見を聞き入れ、管理者に報告しています。管理者は職員間で共有できるように努め、運営の向上に向け、反映するようにしています。	利用者や家族への簡単なアンケートを作って、実施しているが、さらに内容を工夫していく予定である。それらの意見や要望を反映できるように、職員会で話し合っている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はユニットリーダーへ、ユニットリーダーから管理者へ、管理者から社長へと順次検討し、反映できるようになっています。	職員の全体会や、ユニットごとの会を通して、職員の意見を反映できるようにしている。「改善シート」を利用して、課題の改善を活動に結びつけ、取り組むようにしている。「ケア日誌」の記述から、利用者の座席を工夫して変えたりするなどケアの実践に役立てている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長と常に連携を取り、職員の就業状況や前向きな姿勢を把握しています。職員各自が仕事にやりがいのある職場の環境づくりに努めています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の育成では、研修計画を立て、職員同士で協力し合い、しっかり指導し、理解できるまで補助をしています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で同業者との直接の交流が難しくなっています。電話やメールで情報交換し、サービスの質の向上に活かしています。		

己自部外	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様個人の思いや意見を尊重し、安心して生活できるような支援に努めています。傾聴、受容、共有を大切に、しっかり関係づくりを行っています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安なことや要望等に耳を傾け、対応しています。安心してグループホームとの関係が維持できるように努めています。ご家族様の悩みや相談を受け、共有して取り組むようにしています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話に耳を傾け、要望等を把握し、それに対する的確な支援が行えるように努めています。体調の悪い方や他の施設に入所希望の方の受け入れにも配慮しています。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様の立場に立ち、その思いを尊重し、思いやりの心で支援するように努めています。利用者様が今までやったきたこと、できることを把握し、やっていただき、自信につなげるように支援しています。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時や電話での対応、月に一度の生活状況の連絡や「幸楽便り」で利用者様の様子をお知らせしています。面会はコロナ感染状況を考慮し、柔軟に対応するようにしています。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人・知人等の要望により、これまで自由に面会をしていただいていたが、新型コロナウイルス感染を防ぐため、ガラス越しの面会となっています。ガラス越しでも会話ができるようにマイクを準備し、話しやすい環境づくりに心がけています。		家族や親戚、友人や知人とは、コロナ感染の状況に応じ、外と入口、入口と玄関、玄関内などを通して関係継続の支援をしている。友人や知人とは葉書などのやり取りなどができるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様を常に見守り、間に入って支援しています。職員も利用者様の好みを理解し、利用者様同士で楽しむことができる話題づくりに努めています。			

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設への入所のため、退所されるケースがあります。病院や施設には書面や電話でこれまでのサービス利用状況や状態をお知らせしています。今後、ご自宅等に戻られた場合は、ご本人やご家族様からの相談に応じていきたいと思ひます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思い、今まで大切にしてきたことや続けてきたこと、これからどのように暮らしていきたいか等をお聞きしています。困難な場合は、ご家族様から今までの暮らしをお聞きするなどして検討しています。	最初は、利用者一人ひとりの「アセスメント表」を活用している。利用者の思いや意向について職員は、傾聴、受容、共有の態度で接し、ふだんから「ケア日誌」に記録し、話し合ってきている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される時は、ご本人、ご家族様、ケアマネジャーより生活歴やなじみの暮らし方等を確認し、把握しています。サービスの利用先より利用状況をお聞きし、その把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「ケア日誌」により、全職員が利用者様一人ひとりの暮らしを把握しています。医療機関を受診したときは、「医療機関受診表」、「お薬情報」で確認し、把握するようにしています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回開催する職員会議で利用者様一人ひとりのモニタリングを行い、短期目標の達成度を評価し、新たな課題があるか等を検討しています。見直しが必要な時は、ご家族様や訪問看護と連絡をとり、介護計画の見直しを行っています。	ユニットごとの職員会議で、職員全員でモニタリングをしている。そして、利用者の実態を踏まえて、長期目標、短期目標を設定して、具体的なサービス内容を見直し、介護計画を新たに作成するようにしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケア日誌」を基に職員会議で意見交換し、日々の生活の様子を把握して、モニタリングをして実践につなげています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族様のニーズを確認し、できる限りの対応を行っています。医療機関への付添いなどを行っています。		

グループホーム 幸楽2F

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方から季節の野菜を届けていただき、季節の野菜を使った食事の提供をすることができています。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様は、定期的に医療機関を受診をされています。受診が困難な利用者様については、定期的に往診をしていただいています。ご家族様と医療機関等と連携し対応しています。いつもと違う様子にいち早く気づき、訪問看護と連携し医療機関につなげるように対応しています。	かかりつけ医とは2、3カ月に1回、定期的な受診ができるように支援している。2Fでも1人、往診を受ける利用者がある。週1回の訪問看護による看護サービスを受けるようになっており、緊急の場合はかかりつけ医と連携して診てくれるので安心できる。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護ステーションから看護師に来ていただいています。それ以外でも日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきは常に看護師に相談し、適切な指示の下、対応するようにしています。いつもと違う様子にいち早く気づき、訪問看護と連携し医療機関につなげるように対応しています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院の患者サポートセンターへ情報提供を行っています。退院時は、病院の患者サポートセンターとご家族様と連携を密にし、情報交換をし、退院する前にカンファレンスを開催していただき、訪問看護ステーションと連携を密にし対応しています。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常にご家族様と医療関係者と連携を密にして情報交換をしながら、安心して療養できる支援を行っています。	2Fには、全介助を必要とする重度化した利用者はいない。マニュアルを備え、ターミナルケアまで行うような体制をとっている。これまでかかりつけ医と相談して看取りを医療機関で行った事例があった。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、訓練したり、研修したりして取り組む体制ができています。救命のための訓練を実施し、実践力が身につくよう努力しています。利用者の中にコロナ感染者が出ましたが、保健所の助言を受け、的確な対応をしてきました。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町や消防署の協力体制の下、定期的な訓練を行い、全職員が学んでいます。水や食料品などを備蓄し、持ち出し品の整備を行っています。利用者様の安全確保や避難については、訓練やシミュレーションを行い、有事に備えています。	6月に消火訓練と避難訓練をし、11月には避難訓練として、2Fは第1避難場所のベランダから第2避難場所の向いのマンション(災害対策の協定を結んでいる)まで、自分で歩ける利用者や車椅子の利用者を避難誘導してきた。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や研修会を通して職員全員が学び、利用者様と接するようにしています。利用者様の尊厳を守り、心身ともに苦痛を与えないように心がけ、対応しています。	「高齢者の尊厳保持について」などの研修会を通して、職員は学び、日々の利用者との接し方に留意している。排泄に失敗した時には居室の戸を閉め替えをするなど、利用者のプライバシーを守った支援に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いを伝えることができる利用者様には、お話を傾聴し、わかりやすい声かけをして、自己決定ができるように支援しています。それが困難な利用者様には、声かけして勤めても望んでいないような様子が見られた時には、別の方法に変えるなどしています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は声かけしますが、ご本人が起きたい時間に起きてもらえるように心がけています。食事でも起きた時間に対応できるようにしています。常に利用者様が優先という気持ちを全職員が持ち、支援しています。職員都合の支援はしないようにという意識を共有しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝る前にはパジャマに、朝は私服に着替え、一日の活動のメリハリができるようにしています。髪の毛を整えたり、リップクリームを塗ったりするように支援している。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のこれまでの食生活を把握し、良い雰囲気の中で温かい食事がとれるように支援しています。利用者様と職員と一緒に、野菜の皮むきや味見、食べる前のテーブル拭きや食器洗い、食器拭き、そしてお膳拭きを行っています。	ユニットごとに担当職員が毎日の食材を考え、メニューを作っている。季節や行事に合わせた特別な日には、利用者の希望などを活かして、ほう葉寿司やおはぎ、年越しそばなどを利用者も一緒に作り、会食を楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じた食事形態で食事を提供しています。一口大に切ったり、刻んだり、ミキサー食にしたり、トロミをつけたりするなど、咀嚼や嚥下状態に合わせた提供をしています。栄養を考え、肉と魚などを交互に摂取できるように支援しています。水分摂取や食事の摂取量を記録し必要量が摂れているかチェックしています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりの状態に合わせて、歯磨きをしたり、口腔内ウエットティッシュを使用したりして、口腔内の清潔保持に努めています。		

グループホーム 幸楽2F

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを把握し、声かけを行い、自立に向けた支援を行っています。排泄の失敗をした時でも、丁寧な言葉かけや対応ができるように心がけて支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、時間を見ながら声かけをし、支援している。2Fには、おむつ使用の利用者がいないが、トイレ誘導の時は細心の配慮をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課の中で、ラジオ体操や適度な運動をしたり、必要とされる水分を飲むようにしたり、食物繊維を多く取り入れた食事を摂ったりするなどの支援をしています。排便コントロールについては、医師と訪問看護師に相談して、便秘薬を使って排便してもらっています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に合わせ、決して強要することなく、その日の体調に合わせて入浴を支援しています。入浴前に必ずバイタルチェックを行い、入浴後に水分補給をするようにしています。	大き目で広いユニットバスで、原則として週2回午後から3人ずつ入浴できるようになっている。利用者は希望を聞いてもらい、好きな時に入浴できる。1Fは車椅子利用者が1名いるので、シャワー浴で職員の介護を受けている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の一人ひとりの睡眠時間を尊重し、体調に差し支えないようにしています。昼寝をされる利用者様もいらっしゃいます。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの「お薬説明書」を作り、全職員が見えるようにして学んでいます。誤薬、与薬もれがないように注意し、職員全員でご本人の名前と、食前、食後、日付を声に出して確認してから提供しています。状態に応じてご本人の手の上に置いたり、口の中に入れてあげたりして提供しています。利用者様が飲み込むまで見届けるようにしています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりが役割を持って全体の中で活動できるレクリエーションや個人の好みに合わせたレクリエーションなどを工夫して行い、気分転換ができるように支援しています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出することが困難となっていますが、時々玄関先のベンチに座ってもらい外気浴をし、気分転換を図るようにしています。グループホームの前を行き交う地域の方と挨拶を交わしています。	コロナ禍のため外出も制限されている中、環境に恵まれたこのグループホームでは近所周りを散策して楽しんでいる。また、ドライブで桜や紅葉を見たり、かかりつけ医に受診する時は道のりの景色を楽しんだりして、気分転換をしている。	

グループホーム 幸楽2F

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のほぼ全員がお金の管理が難しい状況です。ご本人の希望があれば、ご家族様に相談して承諾を得てから、立て替えて購入している利用者様もいます。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と連携し、都合の良い時間を相談してから電話をかけるようにしています。携帯電話を持って入所される方もいます。ご自身で操作が困難な場合は支援をさせていただいています。手紙については、必要な物を提供し、支援しています。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に共用の空間を清潔に保ち、居心地の良い空間になっています。電灯の交換や清掃をこまめに行い、清潔な空間となるように気配りをしています。	2Fのホールの窓から雄大な御岳山を望むことができ、素晴らしい景色である。ホールには利用者と職員とが共同で作った作品が飾られ、明るい雰囲気を感じられる。リビングにはテレビが備えられ、利用者が楽しんで見たり、CDを使って歌ったりする娯楽の場所になっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様はそれぞれ好まれる居場所があり、好きな場所で過ごしてもらえるようになっています。職員は、思い思いの場所で過ごしていただけるようにそっと見守っています。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族と相談し、できる限り使い慣れた物を持ってきてもらい、環境を整えて、安心して過ごしていただけるようにしています。	居室は旧旅館の名残が残っていて、それぞれ少しずつ違いがあるが、心地よい空間となっている。各居室にはベッドやチェスト、椅子や床頭台などが提供されていて、使いやすくなっている。それぞれの居室には利用者の塗り絵の作品が飾られ、親しみが感じられる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の一人ひとりの日常生活を把握し、職員間で周知し、安全で自立した生活が送れるよう工夫しています。利用者様の動線での安全面を考慮し、自由に歩行できるように工夫しています。		